

掲載元：奄美新聞
掲載日：5月26日



気合の6投目 逆転で南九州つかむ

男子やり投げ・坂本（沖永）

【陸上男子やり投げ】45歳62で6位入賞した坂本連（沖永良部）＝白波スタジアム



男子やり投げの坂本連（沖永良部）が6位で南九州の切符を手にした。

大きな試練を2度乗り越えた。1、2投目がファウルで記録なし。距離を出すために助走の距離を伸ばしたが、足を合わせられなかった。「予選で終わ

った。4投目以降も元の距離で助走したことで安定して40メートルの記録が出たが、5投目で7番

つてしまっのか？」不安がよき中で、3投目は助走の距離を元に戻し、スピードも落とさず慎重に投げた。記録は44.07。自己ベストをちょうど1メートル更新し、8人中6番手で4投目以降の決勝に残った。

4投目以降も元の距離で助走したことで安定して40メートルの記録が出たが、5投目で7番

手の中国（鹿屋工）が44.82を投げて逆転された。このまま7位に甘んじるか、再逆転で南九州をつかむか、チャンスはラスト1投に懸かっていた。



【陸上女子砲丸投げ】9歳55で5位入賞した伊地知ユニス（沖永良部）＝白波スタジアム

「普段締めないハチマキをしたのが良かったかも」と苦笑する。自分の分は家に忘れて

しまったが、チームメイトから借りた分「ご利益」があったのかも。利益がなかったら、自分の分は家に忘れて

丸投げが得意種目だったが、記録が伸びず、やり投げでの南九州、あわよくばインターハイ出場を高校最後のチャンスに懸けていた。綱渡りの試技だったが、挑戦権をつかんだ。自己ベストは出たが「2センチ伸びていない。インターハイに行くならもっと記録を出さないと」と最後は冷静に今後を見据えていた。

（政純一郎）

陸上

（白波スタジアム）

【男子】（800メートル）

▽準決勝 ④矢田光輝（大島3年）2分3秒

33（八種競技）▽決勝

②松島悠斗（鹿児島3年・金久中出身）4

868点⑥村上亮太（沖永良部2年）35

74点（やり投げ）▽決勝

⑥坂本連（沖永良部3年）45歳62

【女子】（砲丸投げ）

▽決勝 ④渡美々香（鹿児島南、赤徳中出身）9歳61⑥伊地知ユニス（沖永良部2年）9歳55